

各位

会社名	株式会社アイビー化粧品
代表者名	代表取締役社長 白銀 浩二 (コード番号 4918 東証スタンダード)
問合せ先	常務取締役 経営管理部 部長
役職・氏名	中山 聖仁
電話	03-6880-1201

第99回日本薬理学会年会における研究発表のお知らせ

株式会社アイビー化粧品（本社：東京都港区赤坂 社長：白銀浩二）は、令和8年3月16日～18日に開催の第99回日本薬理学会年会において、下記の研究発表を行ったことをお知らせいたします。

記

1. 研究発表タイトル

皮膚のホメオスタシス制御を行う植物抽出物の同定と機能解析

Identification and Functional Analysis of Plant Extracts Regulating Skin Homeostasis

2. 概要

本研究は、横浜市立大学 生命医科学研究科 生体医科学部門との共同研究です。マクロファージは、免疫応答および組織恒常性の維持において重要な役割を果たしています。さまざまな細胞外刺激に応答してマクロファージは極性化し、M1マクロファージやM2マクロファージなどのサブタイプへ分化します。過剰なM1マクロファージの活性化は、炎症性疾患の発症や進展と密接に関連しています。

皮膚の恒常性においては、マクロファージ活性化の破綻が血管新生のバランスを乱します。過剰あるいは持続的なM1マクロファージの活性化は、炎症性かつ未成熟な血管形成を誘導する一方、M2マクロファージへの移行が障害されると、血管修復が不十分となります。このような不均衡は、慢性炎症、創傷治癒の遅延、さらには病的瘢痕形成の要因となります。例えば、M1マクロファージはNF- κ B、HIF-1 α 、STAT経路を介してVEGF発現を亢進させます。この炎症依存的なVEGF産生は、炎症環境や低酸素条件下において病的血管新生を促進します。

植物由来の生理活性代謝産物は、多様な化学構造と幅広い生物活性を有する有機化合物の宝庫です。そこで本研究では、マクロファージの活性化および極性化を制御する植物抽出物のスクリーニングを行いました。

TLR4シグナル伝達は、M1マクロファージ極性化を駆動する主要な経路です。本研究において、TLR4誘導性シグナル伝達経路を抑制する新規植物抽出物を同定しました。

これらの結果は、免疫調節を介した皮膚恒常性制御に関する新たな知見を提供するとともに、化粧品科学への応用可能性を示唆するものであります。

3. 今後業績に与える影響

現時点では、当期業績への影響はございません。

以 上